

和顔愛語

寺報

令和3年12月号

12

月の浄土宗の風物詩といえ、25日に総本山知恩院（京都）で行われる御身拭式です。この儀式は御影堂に祀られている法然上人のお像を、同院御住職がみずから布をとってお清めするものです。ちょうどこの日は、僧侶を目指す修行僧が一人前になるための修行を終える日であり、彼らが僧侶として初めて参加する法要が御身拭式です。大勢の僧侶が声を合わせ読経する儀式は、厳かな空気に包まれた中で営まれます。

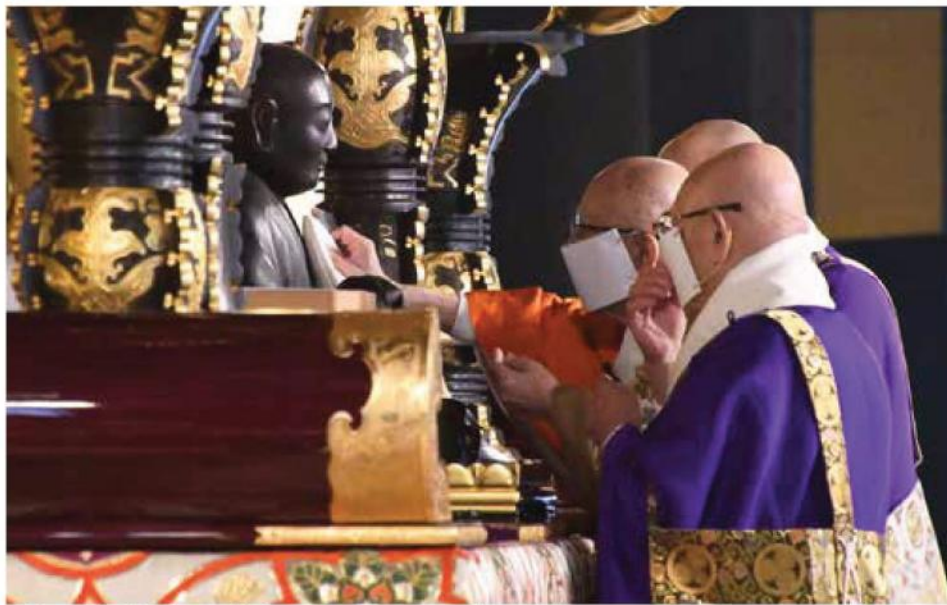
さて昨年以降、コロナがニュースの中心ですが、今年は総選挙や眞子内親王のご結婚など様々な出来事がありました。なにかと話題になったご結婚でしたが、結果として皇室について注目が集まったのも事実でしょう。

心に積もった塵を落とし

清々しい新年を

実は浄土宗は天皇家と深いゆかりがあります。徳川家康が征夷大将軍となり、江戸に幕府を開いた後の、慶長12（1607）年に後陽成天皇の第八皇子である良純法親王が知恩院の象徴となる門跡という地位につきます。それ以降、知恩院の門跡は皇族から招かれることが慣例となり、浄土宗は皇室と関係を結ぶこととなりました。

浄土宗の開祖法然上人は、そのご縁の証として元禄10（1697）年に東山天皇から「円光大師」の「大師号」を与えられ、それ以降50年ごとに歴代の天皇から大師号を送られるようになりました。



法然上人像を拭われる伊藤唯心猥下。©総本山知恩院

「大師」といえば「お大師さん」で知られる弘法大師・空海が有名ですが、法然上人には八つの大師号があり、このような僧は他に存在しません。最も新しい「法爾」は平成23年に今の上皇陛下から与えられたもので、これまでに加誦された大師号をあわせると「円光東漸慧成弘覚慈教明照和順法爾」法然上人となり、江戸時代以降の慣例は、今も続いているものとなっています。

例年12月25日といえば、世の中ではクリスマスが一般的かもしれませんが、知恩院の御身拭式にぜひお参りしてみてください。それが叶わない方は、お寺の本堂にお参りいただき、お念仏をとなえて心に積もった塵を落とし、清々しく新年をお迎えしましょう。

お経の意味を知ろう⑥
 ～日常勤行式編～

「四誓偈」

浄土宗では「日常勤行式」と呼ばれる式次第に則って
 読経します。式次第に書かれているお経（偈文）について
 毎号解説します。

我建超世願	我於無量劫	我至成仏道	離欲深正念	神力演大光	開彼智慧眼	功祚成満足	為衆開法蔵	供養一切仏	如仏無礙智	斯願若剋果
必至無上道	不為大施主	名聲超十方	淨慧修梵行	普照無際土	滅此昏盲闇	威曜朗十方	広施功德宝	具足衆徳本	通達靡不照	大千応感動
斯願不満足	普濟諸貧苦	究竟靡所聞	志求無上道	消除三垢冥	閉塞諸惡道	日月戢重暉	常於大衆中	願慧悉成満	願我功慧力	虚空諸天人
誓不成正覚	誓不成正覚	誓不成正覚	為諸天人師	広濟衆厄難	通達善趣門	天光隱不現	説法師子吼	得為三界雄	等此最勝尊	当雨珍妙華

【意識】

・私（法蔵菩薩Ⅱ仏になる前の阿弥陀仏）は世に
 すぐれた本願（四十八願）を建てました。私は
 必ずその本願を成就して、さとりを得ます。もし
 その通りに成就できなければ、私は仏にならない
 と、固く誓います。（第一の誓い）

・私は未来永劫に渡って大いなる慈悲を施し、心
 の貧しさや苦しみにさいなまれている人々をもれ
 なく救います。もしその通りに成就できなけれ
 ば、私は仏にならないと、固く誓います。（第二
 の誓い）

・私が仏道を完成したならば、私の名号がありと
 あらゆる世界にまでいきわたり、どこにおいても
 耳にすることができるようになります。もしその通
 りに成就できなければ、私は仏にはならないと、
 固く誓います。（第三の誓い）

・師（世自在王如来）の自在な智慧は、あまねく
 行きわたり、照らさないところはありません。願
 わくは私の功德と智慧の力も、この最も勝れた仏
 と等しいものでありたいと心から願うものです。

〈第四の誓い〉

【解説】

ポクポクポクポク……。『お経』と聞いて皆さんがイメージするのは木魚の音とにもお坊さんが読経する姿ではないでしょうか。

ここでは、浄土宗で教えのよりどころとなっている『無量寿経』『観無量寿経』『阿弥陀経』（三つを総称して「浄土三部経」という）を読み上げます。ただ、どれも長いお経なので、日常的にこれらすべての経典を読むのは容易ではありません。そこで日常勤行では、この中から特に重要な文節を抜き出して読んでいます。その一つが『無量寿経』の中にある「四誓偈」です。

仏教ではお釈迦様だけでなく、阿弥陀仏や薬師如来など数多くの仏様が説かれますが、最初から仏となつたわけではなく、みな修行時代（菩薩の頃）に様々な誓いを立て、それを成就することで「仏」となられています。その誓いを「誓願」もしくは単に「願」といいます。

『無量寿経』には、阿弥陀仏が

まだ法蔵菩薩として修行されていた頃に建てた48の願い（四十八願）や阿弥陀仏となつて建立した極楽浄土の素晴らしさ、そこに往生するための方法、阿弥陀仏の功德などが説かれています。中でも四十八願は「本願」ともいわれ、これなくしては浄土宗の教えそのものがありえなくなる最も大切なもので、「四誓偈」にも深く関わります。

法蔵菩薩は世自在王如来という仏様の前で、「自分も仏となつてあなたのようにすべての人々を救いたい」と思いを示し、仏となるならば、こういうことを実現する、という具体的な決意を四十八項たてました。これが四十八願です。その中で特に「南無阿弥陀仏」と私の名をとなえる者は、必ず極楽浄土への往生を叶える」という十八番目の「念仏往生の願」は「王本願（本願中の王）」とも称され、浄土宗の教えの根幹であり、四十八願の中で最も重要な願です。これらの四十八願は、經典で「設我得仏」私が仏となつたなら

ば」の書き出しで記され、諸々の願が成就しなければ「不取正覚」仏とはならない」と結んでいきます。そこに法蔵菩薩の願いの壮大さと意志の強さがうかがえます。

法蔵菩薩の四つの誓い

（成就しなければ仏にはなりません）

「四誓偈」では、48の願い全てを世自在王如来の前で誓つたあとに、改めてその決意を示し、世自在王如来の功德を讃え、自らもそうありたい、としています。いわば意志表明文ともいえ、四つの誓いに分けることができます。

- ①自ら立てた四十八願を成就する
- ②人々をもれなく救う
- ③阿弥陀如来の名前をあらゆる世界に届かせる
- ④偉大な師（世自在王如来）と同じように慈しみの光をそなえ人々を救う

①③の誓いは、それぞれに「誓不成正覚」誓つて正覚を成ぜじ」と結んでいます。つまり、この願が成就しなければ私は仏

にはならない」と強い決意が誓われ、④では師を讃えつつ、改めてすべての誓いを成就できるように宣言しています。

こうして世自在王如来のような慈悲の光を放つ仏となることを心から願つた法蔵菩薩。誓いが成就されたかを明らかにする教えが『無量寿経』の巻下（「四誓偈」は巻上）冒頭に説かれています。

お釈迦様が弟子の阿難に「阿弥陀如来の極楽浄土に往生を願ひ念仏をとなえる者は、即座に往生を得て、そこから外れることはない」と告げておられるのですが、このことは、四十八願の中で最も大切な第十八番目の「念仏往生の願」をはじめ、四十八願全てが成し遂げられ、法蔵菩薩は世自在王如来と同じように、慈しみの光をそなえた「阿弥陀如来」となれていることの証しといえるのです。

「すべての人々を救いたい」

誓願に込められた阿弥陀様の強い意志に心を寄せれば、思わず手は合さり、お念仏の声が感謝の思いとともにあふれてきませんか。

Q&Aですぐわかる！ なるほど浄土宗

⑥

身近な仏教の疑問をQ & A
形式で説明します！

——ご法事の時などにお問い合わせ
「お塔婆とうは」ってなんででしょうか。
お塔婆をあげる意味も教えてください。
さい。



——お彼岸やお盆、ご法事後のお墓参りではお塔婆をおあげになる方も多いことでしょう。お塔婆は、正式には「卒塔婆そとうは」といい、サンスクリット語「ストウーパ」の音を漢字で写したものです。ストウーパは仏様の遺骨を納めた塔のことで、インド等で供養のために建てられました。寺院には仏塔という塔が建てられていることがありますが、こ



れは「ストウーパ」の日本版です。また、お墓の形に五輪塔ごりんとうというものがあります。形の異なる石が積み重ねられたものですが、この五輪塔を木の板で模したものが、私達がお墓にあげるお塔婆です。一般的には木の板を用い、表面に戒名などを、裏面に日付などを記します。形や長さは地域によって異なり、三尺（約90センチ）から六尺（約180センチ）まであります。お塔婆はもともと仏様の供養のために作られたものです。それが遺骨を納めるお墓の形として用いられました。經典にはお塔婆をあげる功德の大きさが説かれており、今では、大切な方を供養するためにお墓に建てられます。お塔婆は個人の名前でおあげすることも多く、亡くなった方へ私達の思いを届けるお手紙のような一面もありますね。

令和四年 年回一覽

令和三年	一周忌
令和二年	三回忌
平成二十八年	七回忌
平成二十二年	十三回忌
平成十八年	十七回忌
平成十二年	二十三回忌
平成八年	二十七回忌
平成二年	三十三回忌
昭和六十一年	三十七回忌
昭和四十八年	五十回忌

* * *
年回法要にあたられていらっしゃるお檀家様はなるべくお早めにご法事の日程をお知らせください。
ご法事の当日までに、お塔婆をお上げになる方のお名前と、当日いらつしやる人数をご連絡ください。
また、当日は
・お写真
・お供物（故人様の好物等）
・墓地用仏花
をお持ちくださいますようお願い申し上げます。

普照山 正定寺

■所在地
〒111-0036 東京都台東区松が谷2丁目1-2
■TEL: 03-3841-1853 ■FAX: 03-3841-1777

紫金山 静蓮寺

■所在地
〒110-0004 東京都台東区下谷1丁目12-21
■TEL: 03-3843-4034 ■FAX: 03-3843-3442

母沖山 清見寺

■所在地
〒100-2211 東京都小笠原村母島字元地122

代理墓参 承ります

コロナ禍でなかなかお墓参りにも行けない…
そんなお声が多数寄せられましたので、住職が代理でお墓を掃除し、お参りをいたします。
ご希望の方は、直接ご連絡いただくか、冥加料を現金書留にてご郵送ください。
後日お参りの様子をお手紙にてお送りさせていただきます。

